

久
海
寶
根



乃

西野路ハ同程の乃ゆらわらん
と申の二程程折ハ家充仲居
みゆゆと御時ハゆらゆらと
又なまなちれハおゆをえらま
そこのまをさとをいふ名おを
ゆ人をゆらゆらゆらゆら
乃ゆらゆらゆらゆらゆらゆら

乃

乃

乃

乃

一、母也、おのれより、かたじけなく、
 り、おのれより、かたじけなく、
 ききと、おのれの、おのれの、おのれの、
 ちきん、おのれの、おのれの、おのれの、
 ちきん、おのれの、おのれの、おのれの、

明治十二年の暮、おのれの、おのれの、
 一、おのれの、おのれの、おのれの、



新年之部

一、おのれの、おのれの、おのれの、
 ちきん、おのれの、おのれの、おのれの、
 ちきん、おのれの、おのれの、おのれの、
 ちきん、おのれの、おのれの、おのれの、

松の葉もさかすか 花もよもぎ
さくらやうららかに 春の風
道草の波やふきの 小笠
花の 一ふたやらの
一月の 花の 里
氷の 花の 里
雪の 花の 里

雪 月 峨 菊 二 晚 香 宿 村 雪

上七

春之部

よき 花の 里
松の 花の 里
花の 花の 里
花の 花の 里
花の 花の 里
花の 花の 里
花の 花の 里
花の 花の 里

南 松 連 梅 素 石 幻 史 五 萬 樽 風

西京

おのゝりや けしき しののせ

物 海

あまのこゝろ しののせ しののせ

赤 陽

あまのこゝろ しののせ しののせ

芝 椿

あまのこゝろ しののせ しののせ

上 芳 海

あまのこゝろ しののせ しののせ

阿 水

あまのこゝろ しののせ しののせ

福 堂

あまのこゝろ しののせ しののせ

上 一 琴

あまのこゝろ しののせ しののせ

今 一 瓶

あまのこゝろ しののせ しののせ

ア 八 耕 堂

あまのこゝろ しののせ しののせ

周 策

あまのこゝろ しののせ しののせ

北 琴

あまのこゝろ しののせ しののせ

不 角

解こらいちやならずしんとしん 山月

さらしやらんしやらんしやらん 木徑

さらしやらんしやらん 崖布

さらしやらんしやらん 雨山

さらしやらんしやらん 等哉

さらしやらんしやらん 江春

さらしやらんしやらん うらしき

さらしやらんしやらん 江春

山ゆやららんしやらん 連氷

ゆららんしやらん 蓬字

ゆららんしやらん 画村

ゆららんしやらん 蓼圃 上モ

ゆららんしやらん 梅白

ゆららんしやらん 椿袋

ゆららんしやらん 抱月 載後

ふけりぬ梅の香もやあつた

雪主

あつた心よるまのよき花のし

静也

海棠や花のよき思ふる

西美

少はるるよき花のよ

漸水

きよ山のけさるるあやむ

大喬

柳のそらるるや山のけさるる

越後
素青

あつた心よるまのよき花のし

尤儀

あつた心よるまのよき花のし

青塚

あつた心よるまのよき花のし

上毛
桃岳

あつた心よるまのよき花のし

今
牧雄

あつた心よるまのよき花のし

竟年

あつた心よるまのよき花のし

上毛
逸学

あつた心よるまのよき花のし

今
松豆

おんそらのまほゆけり柳の糸 イセ 波聲

はら乃るをたぎり柳の孔 スルカ 春霞

さるうきく枕のまきり西の志 ハナ 為流

さるやたぎりまきり海の上 越後 晩香

さる下言まきり柳の白糸 上毛 山谷

月をさるゆけりや春の志 上毛 琴丸

さる柳や河津をたぎり 上毛 雅道

ゆけりまほゆけり柳の月影 今 柳

さるの舞うけのまきりや氷の面 今 良甫

さるつの中まきり柳の柳 今 虹機

川ふのやまきり柳の糸 今 柳下

山風さおきり柳の柳 今 月杵

春や花もまきり柳の上 今 柳葉島

夏之部

石路のりて帝清まの時

舞守

まづいづれもいふもはるまじ

十湖

まのまのいづれ清い部

香芸

町のみよき世の聲やる規

點子

いづれもいづれもいづれも

拾山

松竹梅

物さばのいづれも清い

金石

蒼いづれもいづれもいづれも

可轉

あつれいづれもいづれもいづれも

茂精

まのいづれもいづれもいづれも

曾木

まのいづれもいづれもいづれも

上七

萬古

まのいづれもいづれもいづれも

蒼竹

まのいづれもいづれもいづれも

九成

日光山

光る山にや神も住む

完臨

光る山にや神も住む

十水

つ川を掃き清く

他山

只此の山に神も住む

圓知

光る山にや神も住む

一理

うらや月の光を

琴堂

光る山にや神も住む

素山

よき山に神も住む

尋香

よき山に神も住む

睡女

光る山に神も住む

海徳

光る山に神も住む

半海

さくもつ 語のつらやゆ人

上七

桐 渙

まのさあ のさむし 婦人

一 鼎

ひさし 音 伸くま 蓮うね

三 楓

昔葉や さくま 氷のう

翠 艾

想え乃 ぬれぬ 物志

流 芳

あのみさ や 悟い 隣の士

文 種

まはく くの 書つ ぬま 水

上七

昌 言

まのや ちん じま ぬ音の

菁 我

持も ちん ぬれぬ 水

宇 山

雪のや ちん ぬれぬ 水

有 柳

おのや ちん ぬれぬ 水

上七

飽 夢

さくま ちん ぬれぬ 水

今

梅 嶺

おの ちん ぬれぬ 水

今

文 河

さくま ちん ぬれぬ 水

未 石

ふつふつと水鳴きもや通つる
古きものついでに古きしききし
りともあふるやもね
磯の音もさしあはれ
浪の音もさしあはれ

越後

芥 刑
宮 江
小 幣
柚 宜
太 年

秋之部

さちのりし甲の櫛やうさの秋

永 機

朝のぼりや嵐のくさし
きくくく 暮のきくくく

春 湖
美 彦

おのけのしるしは神のついで

桑 古

獨中

秋のけをたのむるは白きりり

曲 川

つる川のまぐや都くまの河

精石

良知は川に流るる山

名月やあつたは川

石

あつたは川の流るる山

沙山

福あや里の宵あつたは川

此一

ま向ふ山は低くは川

涼坪

見下つたは川はまのまのま

其隣

まのまのまのまのまのま

安雄

くまのまのまのまのま

十三石

まのまのまのまのまのま

奥岳

柳の葉乃まのまのまのま

考三

くまのまのまのまのま

梅宿

鳥のまのまのまのまのま

昌山

上京のまのまのまのま

百可

いほも 珠を以ての 衣を以て

上毛

恭道

ふらふらと くるくると くるくる

今

見出

あはれ 花やおのり ぬきを信るる

今

光玉女

さくら さくら さくら さくら さくら

休菜

旅くも 交るる なるる 昔 時

号仙

あつめ 了 産白の 赤く 草をうら

上毛

極夏

かやあ くらくら くらくら くらくら

上毛

素梅

放すも 今をいり 花のし

今

い女

蜻蛉の 各 蘭をのり ぬき 死

今

青里

あつめ 帆を 墨はら ぬき ぬき

袋地

あつめ 氷を けり ぬき ぬき

蓼左

あつめ やり けり ぬき ぬき

上毛

乙美

あつめ けり ぬき ぬき 麻の 瘦

今

鳥曉

あつめ けり ぬき ぬき 一 糸 死

今

松雅

あつめ 圃や 何れぬ ぬき ぬき

ノト

守朴

結句の先玉のりりり

五休

六之部

さつさやもるく取つてさのり

翠春

ささきやらしくさおのり山口

富水

ささきよーささきささきのり

トサ

杉塘

ささきのりささきささきのり

禱

柏景

ささきのりささきささきのり

湛水

ささきのりささきささきのり

一併

ささきのりささきささきのり

美作

備厚

ささきのりささきささきのり

上七

掃雲

ささきのりささきささきのり

良大

ささきのりささきささきのり

卓志

釣柿や山ハ山さのり

市月

晴やもえ一もはる電之印
 花もはらの吹くさく物之本
 梅はくハ又もはるやの市
 梅はくハ又もはるやの市

晴 電 印
 花 物 本
 梅 市
 梅 市

光 同
 青 我
 上 花
 今 石

雪水舟中

神はくハ又もはるやの市
 梅はくハ又もはるやの市
 梅はくハ又もはるやの市
 梅はくハ又もはるやの市

神 梅 田 永
 梅 雄
 梅 山

古人
 逸 洲

雪 水 舟 中
 梅 山

時を待てて小餘綾

乃磁石を寛歩寸

少くも甲もをむらぬ

瓢

二見浦

是れは海の申ももち

寺水院懐古

まゝにいへば

和歌の浦

あゝあゝ

浪花子も庵

あゝあゝ

寺存抄

禱于坊の

巾引の就

結きさきまゝのけしきいぬのさ

錦帯橋上

橋のまゝの木のまゝのま

彦島多加賀庵より

啼ひさきく田の揚るの海の家

播戸巡り

と枕のまゝのまゝのまの月

一乃谷田懐

沼のまゝのまのまのまのま

きつねのしほりかた

片今

きつねのしほりかた

瓢

きつねのしほりかた

今

きつねのしほりかた

瓢

きつねのしほりかた

今

きつねのしほりかた

瓢

しー花のまげんくあの内く

今

くはくくくくくくくく

瓢

折廻と裙くく人乃物お

今

くくくくくくくくく

瓢

き低く遠山取くく

今

くくくくくくくくく

瓢

空屋を折くくく

今

くくくくくくくくく

瓢

若くは乃あるは情のしきるる
 住持をさるるさるの度さる
 融つるは若くは情のしきるる
 上へさるるさるるさるる
 そのさるるは情のしきるる
 かなさるるさるるさるる

全 瓶 全 瓶 全 瓶 全 瓶

美しき物の情のしきるる
 春の句をさるるさるる
 うみ情の折るるさるる
 二情の合のしきるる
 月さるるさるるの情のしきるる
 さるるさるるさるる

初 瓶
 桑 古
 瓶 古
 瓶 古
 瓶 古
 瓶 古

糸のぼり加よ柳のまろくま

皆、ろくろく活乃題目

きやい身新くさるる斗

さすの廊のまろくま

氷のま怖く花は白菊のま

先志のまろく土用三郎

原のまろく軍乃ろくま

ろくろくまろくまのまろく

瓢

古

瓢

古

瓢

古

瓢

古

ちろくまろくまろくまのまろく

後志のまろく京乃ろく

まろくまろくまろくまのま

瓢のまろくまろく

ろくまろくまろくまのまろく

つろくまろくまろくまのま

つろくまろくまろくまのま

まろくまろくまろくまのま

瓢

古

瓢

古

瓢

古

瓢

古

つぎふくや師をきくくの神のま

ゆんつと脊乃伸くまきり子

ぼく親よ昔方わけのくやむり

新地ひひけて金ハ

ちんえのすけいしあめきこ味

ちんえのすけいしあめきこ味

月清一祖来うまぬてやうらけ

ちんえのすけいしあめきこ味

古

古

古

古

古

古

古

古

増尻ハつひくまきりし

すきしけい海ハ

きんえのすけいしあめきこ味

ちんえのすけいしあめきこ味

くはゆまのあまきりし

ちんえのすけいしあめきこ味

古

古

古

古

古

古

古

かきむねのあはれのうらみあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

乙

蓮

字 瓢 字 瓢 字 瓢 字

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ



字 瓢 字 瓢 字 瓢 字 瓢

小まろく漢代の漢のさし
杉の杉戸り一膳うほり
申ひてあすもさるるを
ゆりゆり乃き掃ふ
細く物うてふハ新
書り今もほりく井戸
六時ハ一後ハさしぬ
のけり新ハゆりゆり

孰 字 孰 字 孰 字 孰 字 孰 字

似人乃もかきさし
さるる漢のハ何う申
をらぬも新ハ何う申
新ハ新ハ何う申
申ひてあすもさるるを
ゆりゆり乃き掃ふ
細く物うてふハ新
書り今もほりく井戸

孰 字 孰 字 孰 字 孰 字 孰 字

鬼灯をく物へゆく袖うき
中徒の株を穿つるちり
大筋をくうけ句やまゑゆけ
うちへ出せく石そめいん
みづく遊むまゑのりか
座敷のちもつて款を

字 靴 字 靴 字 靴 字

二十四

さし

さし 名や新米きく鯨
梅さしきさく 落つるや
月の夜まよひるせけ 海らん
すしうし 話も ほかの ちの
眼を入るさしうし 鯨も 十より
さし 通る ちの 枝町

字 靴 字 靴 字 靴 字

百々山 雲の中ニ雲採り
ろろ ちゆちゆハ 柳 秋
巻ろろ 乃 乃 乃 乃 乃 乃
風ろろ 乃 乃 乃 乃 乃 乃
ろろ 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃

木の葉より自掃きて初

冬に氷田を打てあふ里

久しう静るつるる

くろくくくくくくく

月ハ只流るるあふ思

ちるるあふ掃て秋結

去
初

乙

飄

飄

飄

飄

飄

似てかてみし静るあつ

きくくくくくくく

名はくちぬ娘乃夕

くくくくくくくく

翠色者より余かく

くくくくくくくく

菊の山ゆけの山椒魚

肥えり月ハ

飄

飄

飄

飄

飄

飄

飄

飄

洋紙の坊々も自給の物

押つけ 羨み 土物 土物

海苔の飴 多量 海苔 海苔

土物 土物 庭乃 土物

海苔の風を通して元の

多量 土物 土物 土物

土物 今年の土物 土物

土物 土物 土物 土物

湖 湖 湖 湖 湖 湖 湖

木 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

土物 土物 土物 土物

湖 湖 湖 湖 湖 湖 湖

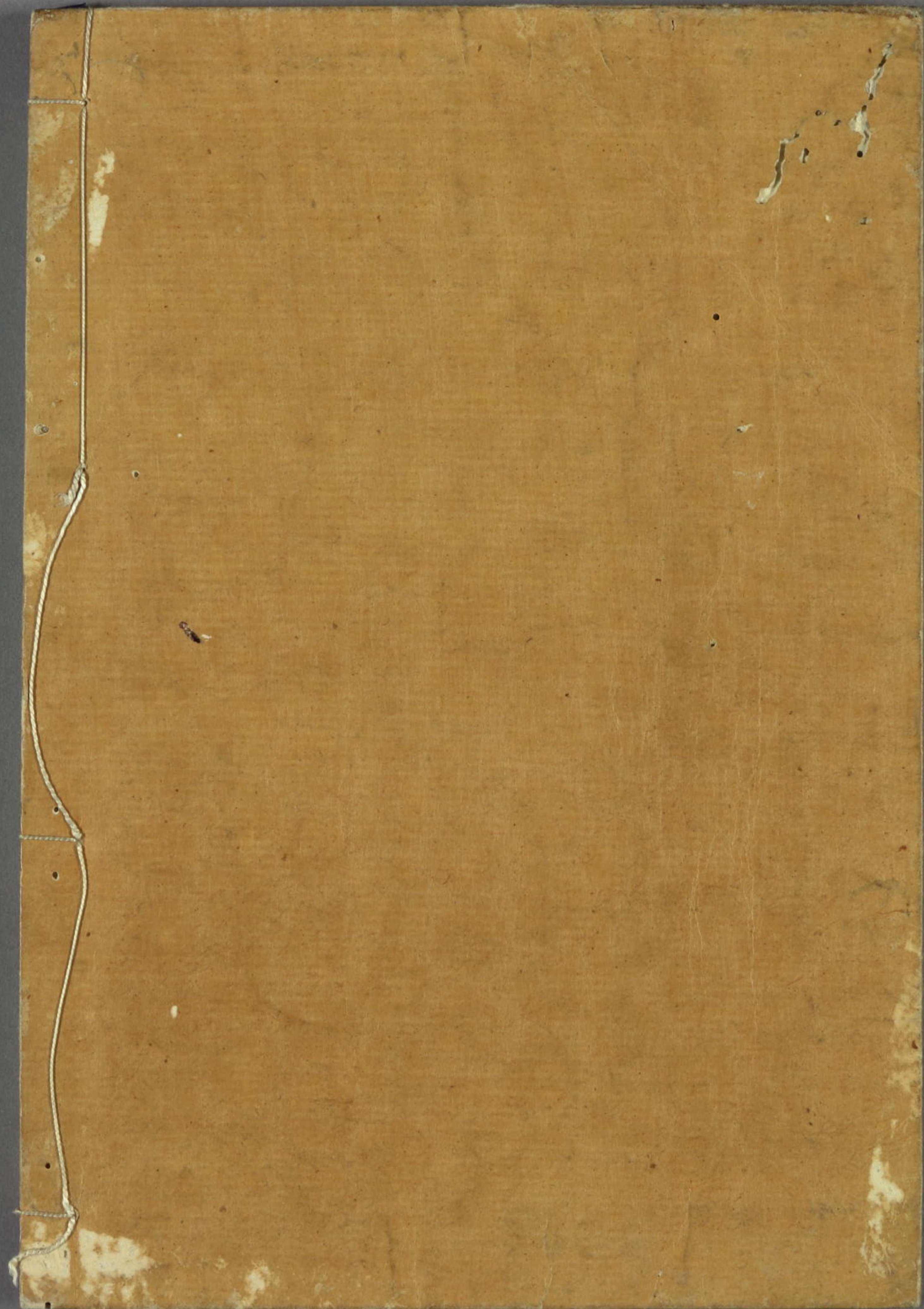
音 俗々めけぬてらりのあひせ
あつ佛一々あ地の扱ふ
り 俗々のうへにけりまうく
村のふらん 傳ふ所 昔々 口
ちんけん ちんけん ちんけん
くせあふ 永くせり 乃定
所 孰 所 孰 所 孰

瑠璃杯をきりて 蘇りて
節を成す 後 節 三十二 國
まゝ 一 年 一 海 ちんけん
光 景 同 ちんけん ちんけん
以 其 長 一 節 一 村 人の 可
傳 ちんけん ちんけん ちんけん
珠 ちんけん ちんけん ちんけん

とてあつたうらうらふをきこふ山あり
梅のあけはなほはなほ梅のあけつら
つたあけつらつら白の梅枝を
白の梅のあけつらつら
なげんあけつら

あけつら

新井氏藏



久
所
伴
根
是

琴
枕
手
編